

かたの



R7.1月29日号
形埜小学校
校長室だより

【特別号】令和7年度以降の複式化について

本号では、令和7年度からの複式化について説明をさせていただきます。すでにお知らせした内容も多くありますが、今一度ここにまとめてお示しします。

1. 複式学級の制度

複式学級とは「児童数が一定の基準を下回る学校において、複数学年の児童を同じ学級として編成する制度」です。学校の事情や希望によらず、単純に児童数をもって決まるもので、このことによる教職員の加配などはありません。

(1) 複式となる愛知県の基準

4月当初の通常学級児童数が…

- ① 1・2年生 … 2学年合わせて7名以下（8名以上は単式）
- ② 3年生以上 … 3・4年生、5・6年生について、各2学年の合計が14名以下（15名以上は単式）

(2) 本校で令和7年度から複式化する学年

3・4年生 と 5・6年生 ※1・2年生は令和10年度まで単式の見込

(3) 1学期始業式時点の児童数推移（令和7年度以降は見込、カッコ内特支、転出入反映）

年度	1年	2年	3年	4年	5年	6年	備考
令和6	7	8	6(1)	8(1)	5(2)	8	県の隔年複式化解消措置（注1）により単式キープ
	15（単式）		14（単式）		13（単式）		
令和7	8	6	7	5(1)	8(1)	5(2)	上記措置の期限が切れこの年度より複式化（来年度）
	14（単式）		12（複式）		13（複式）		
令和8	4	8	5	7	5	8	R8以降に入学する児童数は変動の可能性大（注2）
	12（単式）		12（複式）		13（複式）		
令和9	4	4	8	5	7	5	
	8（単式）		13（複式）		12（複式）		
令和10	4	4	4	8	5	8	
	8（単式）		12（複式）		13（複式）		
令和11	3	4	4	4	8	5	この年より1・2年生も複式化（注3）
	7（複式）		8（複式）		13（複式）		

注1）隔年複式化解消措置 … 小学校3・4年生または5・6年生において、年度毎に複式学級と単式学級が交互に発生するなど編制学級の変動が見込まれる場合、児童への学習指導上の配慮から、本来は複式学級編制となる人数構成の場合であっても、単式学級を保障する制度。具体的には、1・2年、3・4年、5・6年それぞれのまとまりにおいて、

- ① 単式→複式→単式 が見込まれる場合、間の複式期間も単式をキープ
- ② 複式化後に単式化の見込がない場合、本来なら複式化する最初の1年目のみ単

式とし、複式化に向けたカリキュラムの調整期間を確保する。 など

注2) 令和8年度以降の入学児童数(表中赤字部分)は岡崎市教育委員会の集計数(各学区の保育園等に通園する園児数等から算出)に基づきます。したがって、他学区より形埜保育園に通園する園児数も含むため、実際の数字とは異なる可能性があります。

注3) 1・2年生においては注1の措置はなく、1学期始業式時点の児童数が基準を下回る年度から複式化します。

注4) **本表はあくまで見込です。**現状では令和7年度からの3・4年生および5・6年生の複式化はほぼ確定していますがこれから4月1日までに児童数が増え、基準を上回る**ことがあれば単式のままとなります。**増えるといいな…。

(4) 小規模特認校制度

① 小規模特認校制度とは

岡崎市内に在住する小学生で、小規模特認校に認定されている学校(以下特認校)の環境で学びたいという意思をもつ児童が、体験入学などの過程を経て自身の在住する学区から特認校に通学することを認める制度です。原則として、公共交通機関または保護者による送迎で通学します。なお、学校が特認校となるには複式学級を有することが条件であり、本校では来年度転入分からの受入となります。

② 同制度による転入児童

本制度による他学区からの転入児童は、令和7年度においてはありません。なお、額田地区および隣接する地区において特認校となっている5校(形埜小、下山小、夏山小、宮崎小、秦梨小)においては、今のところ下山小と秦梨小に利用者が集中し、夏山小にも若干名が転入予定ですが、本校と宮崎小への転入予定は令和7年度においては0です。同制度を利用する保護者にとって大きなハードルが「通学手段の確保」で、この点で断念される保護者も多いと聞いています。東岡崎駅付近から本校までの通学を例として考えてみると…

◇名鉄バス … ・桜形バス停までの路線はあるが、適切な時刻のバスがない。

午前 桜形着時刻 6:55 と 9:00 の2本

午後 桜形発時刻 13:30 と 16:55 の2本

・東岡崎駅発だと所要時間は片道1時間、運賃は片道子供450円

※下山小はさきゆりバス(げんき館発)による登下校が可能

◇保護者送迎 … ・東岡崎駅付近からの所要時間を同じ県道35号線沿線の秦梨小と比較すると…

形埜小 … 片道35分前後 1日の送迎で2時間20分

秦梨小 … 片道20分前後 // 1時間20分

→ 片道15分の差=1日で1時間の差が生まれる

このように、通学の面で本校は不利な位置にあり、はじめから本校が選択肢から外されてしまうケースが多いようです。

2. 複式化後の教育課程

(1) 複式カリキュラム

岡崎市では複式用の教育課程(以後カリキュラム)が整備されており、すでに複式化している学校(下山小、宮崎小、夏山小など)において本カリキュラムでの学習が行われています。要点は下記のとおりです。(詳細は別紙資料を参照)

① 1・2年生、3・4年生、5・6年生の各2学年で、各教科の学習内容を「A年度」「B年度」の2つに再編成し、授業を行う。

※本校では現状3・4年生と5・6年生のみ複式化 1・2年生は通常のまま

② 令和7年度は「A年度」が基本となるので、3・4年生、5・6年生ともに「A年度」のカリキュラムを実施する。(別紙資料で「(教科名)A」となっている内容)

③ 一部教科（算数、書写）においては、従来どおり学年別での授業を行う。

※5・6年生を例にとれば、5年生は5年生の、6年生は6年生の内容をそれぞれ履修するという事です。学ぶ順序もこれまでどおりです。

※特別活動については、岡崎市の単式カリキュラム該当学年から、学年・学級の状況に応じた内容を選択し実施します。

複式化により、一部教科において学ぶ順序は変わりますが、小学校6年間の学習内容が取りこぼされることはありません。本校では3年生と5年生において本年度から「B年度」を踏まえた内容の学習を実施し、未履修部分がないように慎重に準備を進めています。

※カリキュラムに関するご質問は 教務主任 大盛 までお問い合わせください。

(2) 複式化のメリット、デメリット

複式化によるメリットは「学級の人数が増えること」に尽きます。岡崎市全体で推進されている「チーム学習」では、様々な考えをもった仲間が「チーム」として集まり、意見交流をするだけでなく、「困ったら気軽に聞く」「聞かれたら全力で応える」など、支え合いによる心理的安全性の担保をも狙いとしています。このチーム学習において、これまでのごく少人数でほぼ固定された組み合わせから、より様々な仲間と協働して学び合う機会を保障できるようにします。これは、単に知識をもっているだけでなく、知識を生かして課題を解決したり、新たな課題を見つけたりしていくような「思考力」や「判断力」が強く求められるようになっている社会状況に合わせた教育の推進にとって、大きな追い風となります。

一方で、学級の人数が増えたといっても、中・大規模校に比べればやはり少人数です。今よりも多様な関わりの機会を保障しつつ、35人規模の学級に比べ格段にきめ細やかな指導を子供ひとりひとりに対して行うことができます。これまでの少人数学級のメリットを生かしつつ、よりよい授業、指導を行うことができる環境となるのです。

さらに、子供たちの教室における人間関係も広がります。もともと学年を超えた交流が盛んな本校ですが、学校にいる多くの時間は、同じ教室にいる同学年の仲間のみと過ごしてきました。それが異学年の仲間とも同じ教室で過ごすようになることで、より濃密な交流が生まれ、強い絆が形づくられていきます。心配なこと、不安なことがあったときに、頼ることのできる仲間が増えることは、子供の心理的安全性を保障するのに大きく貢献すると考えています。

デメリットとしては、（保護者の皆様も含めた）外部から見て、各教科の学習内容（今何を学んでいるのか）が把握しにくいのではないかとということがまず考えられます。これについては、今回別紙にてお示した令和7年度・8年度の複式カリキュラムをご活用いただければと思います。

もうひとつ、これは複式化を伴わずとも起きることですが、学級減に伴い教員数減が発生します。学校に配置される正規職員の人数は学級数（小学校では通常学級＋特別支援学級）に対応した「教員定数」として厳密に定められており、令和6年度は8学級に対して12名割り当てられているものが、令和7年度は6学級に対して10名の割り当てとなり、2名減ります。これまでどおり子供の体験的な学習活動を保障していくためには、他の部分で教職員の業務最適化を図っていく必要があります。保護者の皆様にもご理解とご協力をお願いすることがあるかと思いますが、よろしく願いいたします。

(3) 行事等

現時点では検討中の部分もありますが、ほぼ今年度と同等の実施を見込んでいます。なお、複式化にあたってご家庭の「？」が予想される主な行事については、次のようにします。

- | | | |
|------|---|-------------------------------|
| 山の学習 | … | 5年生のみで実施（従来どおり） |
| 学芸会 | … | 令和6年度と同じ形（1・2年、3・4年、5・6年）で実施。 |
| 修学旅行 | … | 6年生のみで実施（従来どおり） |

低学年校外学習 … 1～3年生（従来どおり）

スキー学習 … 4～6年生（従来どおり）

※部活動につきましては、今後本紙とは別に文書を出す予定ですので、そちらをお待ちください。

3. 複式化に向けて学校が行っていくこと

学校としては主に次のようなことを行っていきます。

- ① 複式カリキュラム開始に向けた現3・5年生の履修状況確認（令和6年度中随時）
- ② 複式化に関する説明資料配付（今回+4月当初）
- ③ 複式学級の経営・授業に関する教員研修（随時）
- ④ へき地教育に関する派遣研修（令和7年度中、市県内外合わせて数回）
- ⑤ 複式カリキュラムの実施状況確認による履修漏れ防止（随時）
- ⑥ 生活アンケートによる児童の状況調査とケア（アンケートは各学期2回実施、ケアは随時）
- ⑦ 小規模特認校による令和8年度転入児童の募集に係る活動ならびに形埜小の認知度向上に関する活動（随時）
- ⑧ 愛知県へき地教育研究協議会と連携した教育研究ならびに陳情（年間数回）
- ⑨ 複式化に合わせた教職員の業務最適化（随時）

これらの他にも、子供たちが安心して学校生活を送るための様々な活動に取り組んでまいります。

4. ご家庭でしていただきたいこと

複式化に伴う教材購入（新年度当初に各学年でお知らせします）へのご協力が中心となります。その他、学校での生活・学習に関してご家庭でしていただくことについては、特に想定しておりません。ただ、子供にとっては環境が変わるので、これまでどおり学校での出来事をいろいろとお子さんに聞き、励ましていただければ幸いです。もし、お子さんが何らかの負担を抱えていると感じられたら、すぐに担任までお知らせください。

5. おわりに

形埜小学校152年の歴史上初めての複式化。子供たち、保護者の皆様、そして私たち教職員にとっても手探りの中で始まる令和7年度ではありますが、形埜小職員はこれを「ピンチ」ではなく「チャンス」と捉えています。「複式化」という言葉は、一般的にはネガティブに捉えられがちですが、上でも触れたような複式化のメリットを最大限に生かすことさえできれば、形埜小にとって新しい一歩となり得ます。もちろん、学級数、教員数が減ることに伴う難しさはあるものの、それすら「本当に必要なものを見つめなおす機会」であると言えます。一方で、小規模特認校の継続、形埜小の認知度向上等、児童数を少しでも増やすための努力も継続していきます。

保護者の皆様には、新しい形埜小誕生の目撃者となっていただきます。これからも様々なお願いをすることがあると思いますが、変わらぬご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。